自分(たち)の考えを視覚化しながら，動きのポイントを追求していく体育学習

― 5年「どこでアウトにするか考え，チームで協力しよう！～ならびっこベースボール～」の実践から ―

１　単元のねらい

作戦ボードや自分たちの守備映像をもとに，「どこで」アウトをとればいいかを考えることを通して，打球に応じて自分の役割を選び，動き出す力を養うことができる。

２　授業の構想

⑴ 子どもをとらえと資質・能力について

６月に走り高跳び（全６時間）の学習を行った。以下に示すふりかえりは，第２時に，記録会を行った後，現時点で考える動きのポイントについて書かれたふりかえりである。

○振り上げ足を高く上げるといいと思う。（A児）
○足を伸ばして，おしりより高くするといい。（B児）
○ふみきりを強くしたい。（C児）
○背中から身体を上げるようにするといい。（D児）

先に挙げたふりかえりから，子どもは，走り高跳びの動きのポイントを様々な視点から考え，自分の言葉で表現していることがわかる。次時には，「振り上げ足を高く上げる」ために必要な動きを考え，試行してみることをねらいとして学習に取り組んだ。子どもは，友達と動きを見合う活動を通して，振り上げ足の動きのポイントを考え，その動きを習得しようと何度も試行するとともに，「振り上げ足」を高く上げる動きにつながる動きのポイントを考える姿が見られた。学習が進むにつれて，「振り上げ足」から，「助走」，「ふみきり」の動きのポイントを考え，技能を高めることができた。このように，多様な見方で動きのポイントを考えることができ，学級全体で学び合うことで，より思考を深め，技能を高めることができる子どもである。

本学校園体育科・保健体育科として考える身に付けさせたい資質・能力の一つに，「技能構造を追求し，考える力」がある。本単元の中でも，「もっと得点をとりたい」「得点をとられないよう，守りがうまくなりたい」というような思いをもつであろう。基本的な技能を高める活動やタスクゲームを通して感じた動きのポイントを考えられるはたらきかけをすることや，学び合いの場を設けることで，さらに動きの高まりを目指して活動する子どもの姿を引き出すことができると考える。

本単元では，ならびっこベースボールを題材とする。本題材「ならびっこベースボール」は，ボール運動領域におけるベースボール型のゲームである。今回は，打者がボールを打つ代わりにボールを投げることとする。攻撃側は，人のいない場所をねらってボールを投げ，多くの得点を入れることに楽しさがあり，守備側は，打者をアウトにし，得点を入れさせないようにするところに楽しさがある。また，ボールを投げる（得点をとる）技能が高まるにつれて，守備への意識が高まり，相手をアウトにする楽しさを感じる子が増えてくると考える。相手の得点を防ぐためには，「どこで」アウトにすればいいかを考えることが大事である。アウトにするために，守備側には，様々な役割が必要となる。打球に応じて，役割を決め，チームで協力して動くことができるようになることで，ゲームの楽しさをより味わうことができる教材である。

(2) 資質・能力を育むために

本単元を通して，最終的に子どもには次の力を身に付けてほしいと考えている。

◎打球に応じて適切な役割行動（チームプレイ）を判断して動き出す力。【守備】

○ねらう場所を決めて，その場所に投げる力。【攻撃】

このような力を身に付けるために，以下の手立てを行う。

攻守両面を一体として，系統的に力を付ける授業づくり

本単元においては，単元を通して基本的な動きの習得を図りつつ，単元の前半には，「ねらう場所を決めて，その場所に投げる力」を高めることに，単元の後半には，「打球に応じて適切な役割行動を判断して動き出す力」を高めることに重点をおくこととする。そうすることで，子どもは，攻守それぞれに自己の課題を見つけ，どういった動きをすればいいのか考えて学習を進めることができると考える。単元の初めには，「どうしたら遠くに投げることができるのか」という問いをもち，目指す投げ方をイメージできるようにする。また，投げる動きの習熟が進むにつれ，相手に得点をとらせたくないという願いをもつと考える。「とられる得点を少なくしたい」という思いを高め，学級全体の課題とすることで，「どこで」アウトにするのか仲間とともに相談する子どもの姿を引き出すことができると考える。「どこでアウトにするか」と必要な動きを考える中で，子どもたちは，「ボールの飛んだところによって，集まる場所を決めないといけない」という気付きをもち，同じグループ，学級全体で話し合うことで，アウトにするために必要な動きについての考えを深めていくことができると思われる。このような構想で系統的に学習を進めていきたいと考える。

子どもが気付きを獲得する学び合い

学び合いを通して，子どもが気付きを獲得することができるよう，単元を通して以下の手立てを行う。

○作戦ボードの活用

「どの場所をねらって投げるとよいか」を考え，同じチームの仲間と相談する活動を行う際，「作戦ボード」にねらう場所を書き込むことを提案する。ねらう場所をボードに図示することで，自分の考えが伝えやすくなるだけでなく，友だちの考えもわかりやすくなる。また，守備の時にも作戦ボードが活用できると考える。自分たちの守備位置をマグネットで示すことで，打球の飛んだ場所を想定し，マグネットを動かして守り方を確認することもできる。

○マイチームテキストの活用

子どもたちは，試しのゲームやタスクゲームを行う中で，チームが強くなるために大切なことは何かを考えると思われる。そこで，チームで大事にしたいことを書き込むことのできる「マイチームテキスト」を使うことを提案する。このマイチームテキストは，攻めるとき，守るときの２項目毎にわけて書き込むものである。単元を通して活用するようながすことで，マイチームテキストに書かれた内容が増えていくともに，攻撃・守備への思考の深まりを感じることのできる内容となると考える。

３　単元計画（全８時間）

次	時	主な学習内容	◇願う子どもの姿
1	1 2	○試しのゲームを行う。（２時間） ・投げる，捕るなどの動きを確認する。 ・攻撃はボールを投げることを確認して，試しのゲームを行う。	◇もっと得点をとりたいという思いをもつ姿 ◇チームの仲間と協力するといいなと感じている姿 ◇どうしたら得点がたくさんとれるのか現時点で考えている姿

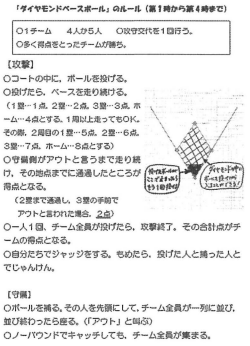
2	3	○ボールを投げるときの動きのポイントについて考える。 ・考えた動きのポイントを試してみる。	◇体の部位を用いて，動きのポイントを表現しようとしている姿
	4	○攻撃するときにどの場所をねらったらよいのか考える。 ・ねらう場所について，考えを確認する。 ・自分の考えを試すゲームを行う。	◇自分のねらう場所を作戦ボードに書き込み，その理由が言える姿 ◇ねらう場所について理由も合わせて，自分の言葉で表現できる姿
3	5	○守るときの動き方について考える。 ・守りの上手なチームの映像を見て，守りのポイントを考える。	◇その場所に集まる人などの守備の役割がわかる姿 ◇作戦ボードを用いて，守りの役割分担を考えている姿
	6	○守るときのチームのやくそくを作り，確かめる。 ・やくそくにある動きを確かめるゲームを行う。 ・ゲームの中で考えたことを学級全員で確認する。	◇守りのやくそくで確認したチームの動きを行っている姿 ◇打球に応じて自分の役割を判断している姿 ◇自分の考えを仲間に伝えている姿
4	7 8	○これまでの学習を生かし，リーグ戦をする。 ・打球に応じて自分の役割を選び，守る。 ・単元全体のふりかえりを行う。	◇チームで協力して攻撃，守備を行うことの気もちよさを感じている姿 ◇友だちの頑張りを認めている姿

4　授業の実際

本実践は，「打球に応じて適切な役割行動（チームプレイ）を判断して動く姿」を目指し取り組んだ。そのような姿を引き出すために，学び合いを核とした授業づくりを行い，子どもが動きのポイントに対する気付きを獲得することができるようにした。

(1) ベースボール型の学習に出会う子ども

第１時において，子どもたちにプロ野球のハイライト映像と熱狂する観客の映像を見せた後，ベースボールをすることを伝えた。子どもからは，「ほとんど野球を見ないからわからない」「難しそう」という反応があり，不安そうな表情を見せる子もいた。そこで，一般的な野球と違いルールを簡単にしていることを伝え（図１），試しのゲームを行った。特に守備の時，チーム全員が集まることに戸惑っていた子どもたちであったが，次第にルールに慣れてくると，意欲的に取り組むようになった。この時間の終末には，「試しのゲームを通して考えたこと」という視点を設け，ふりかえりを行った。以下はその際のふりかえりである。


「ダイヤモンドベースボール」のルール（第１時から第４時まで）

○１チーム　４人から５人　○攻守交代を１回行う。
○多く得点をとったチームが勝ち。

【攻撃】
○コートの中に，ボールを投げる。
○投げたら，ベースを走り続ける。
（１塁…１点，２塁…２点，３塁…３点，ホーム…４点とする。１周以上走ってもOK。
その際，２周目の１塁…５点，２塁…６点，３塁…７点，ホーム…８点とする）
○守備側がアウトと言うまで走り続け，その地点までに通過したところが得点となる。
（２塁まで通過し，３塁の手前でアウトと言われた場合，２点）
○一人１回，チーム全員が投げたら，攻撃終了。その合計点がチームの得点となる。
○自分たちでジャッジをする。もめたら，投げた人と捕った人とでじゃんけん。

【守備】
○ボールを捕る。その人を先頭にして，チーム全員が一列に並び，並び終わったら座る。（「アウト」と叫ぶ）
○ノーバウンドでキャッチしても，チーム全員が集まる。

図１：初めのルール

・たくさん点を取れて楽しかったです。もっとたくさん点をとる方法を考えたいです。 ・全然点が入りませんでした。どこでどういう風にすればいいか考えながらしたいです（攻撃）。 ・ゲームをしてみて，私は守りの人がいないところにボールを投げたらいいと思いました。 ・人がいないところをねらって投げると点がとれると思います。

これらのふりかえりを見ると，子どもたちは，「たくさん得点をとりたい」という思いをもっていることがうかがえた。そして，得点をとるための考えとして，「遠くに投げる力」に着目している考えと「ねらった場所に投げたい」といった投げる場所について着目している考えに大きく分類できた。

子どもたちがもった「ねらった場所に投げたい」という思いは，本単元のねらいにも迫るものであり，授業者として大事にしたい子どもたちの問いである。

(2) ねらった場所へボールを投げる子ども【攻撃】

第２時では，ねらう場所を考えて，攻撃することのめあてを設定し，授業を行った。キャッチゲームの後，子どもたちに，あるチームの守備の様子を写した写真を提示し，「どの場所をねらったらたくさん得点がとれそう？」と発問したところ，「守りを越えるように，遠くに投げる」「空いている場所に投げる」というような発言が聞かれた。

これらの発言に対して，「この場所のことですか？」と発言の示す場所に色つけをした。また，ねらう場所をはっきりさせて攻撃できるよさを視覚的に感じられるよう，「マイチームテキスト」を用いることを提案した。そうすることで，子どもたちは，空間を意識するようになり，ねらう場所をはっきりさせて攻撃を行う姿が見られた（**図２**）。攻撃の場面では，投げようとする友達に「ここをねらうといいよ」と相手の守備位置を見た上で，教え合う姿がたくさん見られた。その後の学習においても，「マイチームテキスト」に書いた攻撃方法が，チームの作戦となり，単元の終わりまで，「マイチームテキスト」を活用する子どもたちの姿があった。

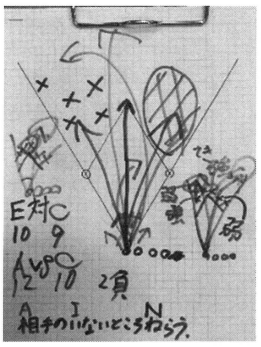


図２：ねらいを図示したテキスト

(3) 得点を防ぐための守りの動きを考える子ども【守備】

・空いているところをねらってできたけど，まだ守りが上手くないので工夫したいです。
・たくさん点をとられるから守りを強くしたいです。
・次に考えたいことは，守備をどうやって強くするかです。

上記のふりかえりは，これまで試合を何度も行うも，１回も勝っていない子どものふりかえりである。試合の様子を見ていると，ねらう場所をはっきりさせて攻撃はできているが，守備の時，適切な声かけができないことで，アウトにするのに時間がかかり，大量失点してしまうことが多かった。これは，多くのチームで見られる課題でもあった。そこで，「守備を強くしたい」という子どもの思いをもとに，「どこで」アウトにするのかを考え，チームで声かけをし合うよさを感じられるような，新たな守備ルールとの出会いが必要な時期だと考えた。そこで，第４時に，守備の新ルールを提案し，「守りの動き方を考えて，チームの作戦を考えよう」と投げかけた。

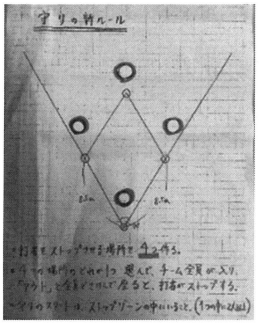


図３：守りの新ルール

主な変更点は，以下の２点である（**図３**）。

○コートに４つの円を作り，その円のどれか１つ選んで，チーム全員で集まったらアウト。
○守備チームは４つの円のうち，２つにわかれて待機する。

この時間は，「守備について考えたこと」という視点を設け，ふりかえりを行った。

・ボールをとる人を決めて，すぐに集まれるようにしたら，今まで勝てなかったのに，初めて勝つことができました。
・守りの作戦をたてることができてよかったです。今回のやり方だったら，守りの作戦が思いつくので，次もしっかり考えたいです。

このふりかえりは，先に紹介した１回も勝てなかった子のふりかえりである。このAチームの子どもたちは，「ボールをとる人を決め，ボールをとった位置に近い円に入る」という作戦をたて，ゲームで試していた（**図４**）。役割をはっきりさせたことで，このチームの動きが変わり，上手にアウトをとることができるようになった。その後，チーム全員で「こっち」と声を掛け合って動く姿がたくさん見られるようになった。Aチームが見つけた「ボールをとった位置に近い円に入る」という作戦を学習後に紹介したところ，「自分たちもやってみよう」というつぶやきが聞かれ，どのチームでも大事にしたい考え方として定着していった。

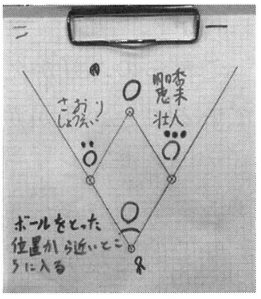


図４：守備の作戦①

このように，単元の中で攻撃の技能を高めた後，守備の技能を高めることのできるよう系統的に学習を構成したことは，ねらう場所を決めて，その場所に投げる力や打球に応じて適切な役割行動（チームプレイ）を判断して動き出す力を高めることにつながったと考える。

⑷ マイチームテキストをよりよくしようとする子ども【守備】

第５時では，第４時のふりかえりから「守りの作戦を考えるよさ」について紹介し，さらに得点を防ぐための作戦を考えたり確かめたりする時間を設定した。以下に書かれているのは，Ｂチームの話し合いの様子である。

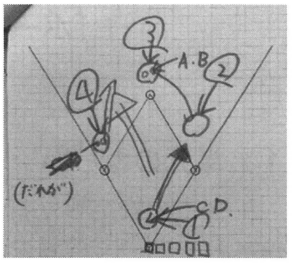


図５：Ｂチームの作戦

児童Ａ：「こっち」と言っても早く集まれん。どうしたらいい？
　　～わからんという言葉が何度もやりとりされる～
　Ｔ　：対戦したチームの中で，いいなと思うもの（作戦）はあった？
児童Ｂ：〇チームが数字を言って動くの。あのチーム守りが強いよね。
　　～チームの全員がうなづく～
　Ｔ　：その作戦のどんなところがいいの？
児童Ｃ：短い言葉だし。迷うことが無くなると思う。
　Ｔ　：じゃあ，自分たちの守りの作戦にして，試してみたらどう？
児童Ａ：それでやってみます。

教師が，他のチームの作戦のよさを考えるよう提案したことで，Bチームの子どもたちは，「４つの円に数字をつけ，ボールがここに行ったときにはこの場所に集まろう」という話し合いを始めた（**図５**）。そして，ゲームでは，ボールをとった位置に近い円を数字で示し，チーム全員で声を掛け合い，素早く動き出す姿に変わっていった。

単元の終わりには，これまでの学習をいかしてゲームを行うことをめあてにして，学習に取り組んだ。主に子どもたちが考えた作戦は以下の通りである。

〇輪に集まれ作戦…集まる場所を数字で示して，みんなで集まる
〇守備位置を変えるぞ作戦…投げる人に応じて，守備位置を変える
〇ボールとって作戦…ボールをとる人を決めて，それ以外の人は指示をだす

これらの作戦やゲームでの姿を見ると，学び合いの場の設定やマイチームテキストなどの効果的にはたらくための手立てを通して，子どもたちは「ボールの跳んだ場所に応じてアウトにする場所を判断し，動きだす」ことをゲームの中で活用していることがわかる。

５　おわりに

本単元の実践から，体育科における身に付けさせたい２つの資質・能力が身に付いたのかについて考察する。

【技能構造を追求し，考える力】について

攻撃の力を高め，守備の力を高めるといった系統的に学習できる単元を構想したこと，学び合いを設定し，新たな気付きをうながす提案や掘り下げといったはたらきかけをしたことで，ねらいとした動きの獲得につながった。しかし，投げる力を高めるためのスキルアップの時間は効果的ではなかった。スキルアップの内容を工夫するとともに，下学年からの継続的な動きを高める取組を行うことが大事である。

【自分や仲間の姿を観察し，思ったことを言葉や身体をつかって伝える力】について

単元を通して，ならびっこベースボールの楽しさを感じ，夢中になって取り組む子どもたちの姿が見られた。自分たちの考えを視覚化し，書き綴っていく「マイチームテキスト」を活用し，熱心に話し合いを行っていた。自分が考えたことをさらに深めるために，見る視点を決め，お互いの動きを見合う活動を取り入れることが必要だと考える。

本単元の実践を通して，子どもたちは打球に応じてアウトにする場所を判断し動き出す力を身に付けることができた。子どもの思いと身に付けさせたい力とをつなぐはたらきかけをさらに工夫すること，年間を通した継続的な取組を行うことで，子どもたちの思考も一層深まり，２つの資質・能力を高めることができると考える。　　（文責　三島　康紀）